

# micro:bit (マイクロビット)



QRコードを読み取って、Micro:bitのシュミレーションサイトに動き、新しいプロジェクトを始めよう。

線の上的ブロックまで作成したら、マイクロビットを接続して、実際の動きを確認してみよう。

Connect Deviceでマイクロビットを接続する

ずっと  
もし 傾斜 (\*) ロール >> 40 なら  
矢印を表示 右向き →  
もし 傾斜 (\*) ロール << -40 なら  
矢印を表示 右向き →  
もし 傾斜 (\*) ピッチ >> 40 なら  
矢印を表示 下向き ↓  
もし 傾斜 (\*) ピッチ << -40 なら  
矢印を表示 上向き ↑

マイクロビットと接続するには、USBコードが必要です。  
シュミレーターで動作の確認が終わったら、プログラムをダウンロードして、  
マイクロビットを動かしてみよう。

# Microbit Moreで迷路を作ろう



```

[が押されたとき]
  [パターン [ドット] を表示する]
  [背景を レベル1 にする]
  [x座標を 211、y座標を -145 にする]
  [ずっと]
    [もし [色に触れた] なら]
      [パターン [ドット] を表示する]
      [440 Hzの音を 100 %の大きさに鳴らす]
      [1 秒待つ]
      [x座標を 211、y座標を -145 にする]
      [音を止める]
      [パターン [ドット] を表示する]
    [でなければ]
      [もし [Griffin に触れた] なら]
        [GOAL! と 2 秒言う]
      [でなければ]

```

ブロックの空いている部分には、[ウェイトモード] または [アクティブモード] のどちらかを入れて進める。数値は変更してもよい。

## ウェイトモード

```

[もし [ピッチ < -40] なら]
  [y座標を 3 ずつ変える]
[もし [ピッチ > 40] なら]
  [y座標を -3 ずつ変える]
[もし [ロール < -40] なら]
  [x座標を -3 ずつ変える]
[もし [ロール > 40] なら]
  [x座標を 3 ずつ変える]

```

## アクティブモード

```

[x座標を [ロール] * 0.1 ずつ変える]
[y座標を [ピッチ] * -0.1 ずつ変える]

```

次の面を作成する場合は、背景とスプライトを追加し [が押されたとき] ブロックと、[GOAL!] ブロックの後に、次のブロックを追加する。  
※メッセージは自分で入力する

```

[レベル2へ を受け取ったとき]
  [表示する]

```

```

[レベル2へ を送る]
  [隠す]

```

# スライドで通路を作ろう



QRコードを読み取って、[ファイル] [コピーの作成] でマイド  
ライブにコピーを保存する。  
スライドのマス目を塗りつぶし、通路を作成する。塗りつぶす色  
は一色とし、色は自由。繰り返し塗るときは、 [Ctrl] + [Y]  
キーを使う。

スライドをコピーして、面を追加する

[ファイル] [ダウンロード]  
[PNG画像] で画像をマイドライブ  
にダウンロードできる

ダウンロードした画像は、Scratchのプログラミング画面で、背景に追加することができる。ダウンロードしたファイル名を変更しておくとうわかりやすい。ファイルは、マイドライブ内に保存される。